

# BOATMEN

NPO法人 石川県小型船安全協会会報「ボートメン」 20号（2008年12月発行号） Vol. **20**

メッセージ …石川県土木部河川課長 常田 功二 氏

トピックス …大野川に係留施設が完成、ざぶん賞2008表彰式

活動報告 ……夏のイベント、海難訓練、講習会 など

安全情報 ……ライフジャケット着用を徹底しよう！

---

ざぶん賞受賞作品◎ ポートマンズエッセイ・豊かな海のために



# 治水安全度のさらなる向上と、 河川環境の改善をめざして。

全国初の試み、ボート所有者の団体による  
河川係留施設が整備されました。

石川県土木部河川課長  
常田 功二（つねだ こうじ）氏

穏やかな川の流れから「おんな川」と称され、多くの県民や観光客に親しまれてきた浅野川が、7月28日早朝の局所的な集中豪雨により、55年ぶりに氾濫し甚大な被害をもたらしました。

平成20年は、こうした「ゲリラ豪雨」と呼ばれる集中豪雨が全国的にも多発し、治水対策の重要性を改めて痛感した次第であります。

さて、河川における不法係留問題に対する取り組みも、河川の治水安全度を高めるうえでは重要な取り組みの一つであり、県では、平成15年から管理河川の中でも最もプレジャーボートが集積している犀川・大野川水系を対象として対策を進めてまいりました。

この問題の解決のためには、受け皿となる施設の整備を進めることが喫緊の課題であったことから、平成18年9月に「プレジャーボート係留施設整備・運営事業者」の公募を行ったものでありますが、これに応募いただきましたのが、小型船安全協会金沢支部の皆様が中心となって設立された「合同会社ウォーターフロントパーク金沢」でありました。

県が公募し、民間事業者によって受け皿となる係留施設の整備から運営を行うケースは全国で4例目ですが、ボート所有者の方々が自ら会社を設立し、事業にあたるケースは全国初の試みであります。

その後、紆余曲折を経て、10月に大野川分水路において施設が完成し、地元住民の祝意を受けて、盛大に開業記念式典が執り行われたところでありますが、これも一重に、支部会員の皆様方をはじめ、事業の推進にご尽力をいただきました関係各位のご努力の賜であり、心より敬意を表する次第です。

県といたしましては、施設の開業を機に関係機関とも連携して、犀川・大野川における不法係留船の撤去指導に努め、治水安全度の向上と河川環境の改善を図ることとしておりますので、今後とも、ご協力をお願いいたします。



## 大野川に係留施設が完成。

10月11日 ウォーターフロントパーク金沢 竣工式

金沢支部の皆様のご多大なご尽力により、大野川の係留施設が完成しました。水面100隻、陸上60隻の規模を持つ施設で、大野川河口右岸、左岸に整備されました。

有志の皆様で結成された、合同会社ウォーターフロントパーク金沢が、同地区の整備、管理者として石川県より認定され、地元との関係づくりも行いつつ、このたび完成となりました。ユーザーが結束し団体を作り、業界や自治体の資金を求めることなく、自力で係留施設を建設、維持しようとする試みは、全国でも例のないことで、関係者から注目されています。

竣工式には、まず会社を代表して、会長代理の吉田氏のご挨拶、その後、谷本県知事、金沢海上保安部の山岡部長、地域を代表して出席された大野町連合会長の粟森氏が順にご挨拶されました。

知事からは、長年の課題であった、金沢港の不法係留対策となる大きな一歩であるとお言葉をいただきました。

式終了後、オープンを祝して地元の皆様による獅子舞が披露され、続いてテープカットが行われました。その後、地域の小学生がボートに乗り込み、記念の体験航海に出発しました。

河岸の浮き桟橋に整然と係留する、金沢では初めての景観が、新たな海洋文化や街づくりに一石を投じることにもなり、同社も地域の皆様と共に継続する施設を目指しています。

当会では環境保全事業として進めてきた係留問題対策の一つ成果となりました。この前例に基づき、今後、他地区においても対策が求められます。



## ざぶん賞2008表彰式開催。

11月23日 金沢で表彰式、記念イベント開催

当会が共催しているざぶん賞は今年7回目を迎え、表彰式がウェルシティ金沢(石川厚生年金会館)にて、また作品展が金沢21世紀美術館で開催されました。全国の小中学生から約5,500作品の応募がありました。全国表彰と石川県地区表彰に選ばれた皆様が招かれ、約180名が参加しました。

県内からは金沢市、輪島市のほか広く各地からの応募があり、地元への浸透がうかがえます。

実行委員会理事で東京大学名誉教授の月尾嘉男氏が、会を代表してごあいさつ、その後当会顧問の馳 浩氏が、また地元を代表し、参議院議員の岡田直樹氏が歓迎のご挨拶を行い、各入賞者に順に壇上で賞が授与されました。石川県内の入賞者には、土木部次長の尾崎良一氏、金沢海上保安部長の山岡泰也氏、および七尾海上保安部長の三國利弥氏らからそれぞれ賞が授与されました。

式の後、審査員で作家・翻訳家の松本侑子さんが、「赤毛のアンへの旅」と題し、講演を開催しました。



## 実行委員会会長 筑紫哲也氏が逝去、ざぶん賞のこれまでの経過と今後につきまして。

2003年から6年間会長を務められた筑紫哲也氏は、昨年11月、逝去されました。関係者一同謹んでご冥福をお祈りいたします。

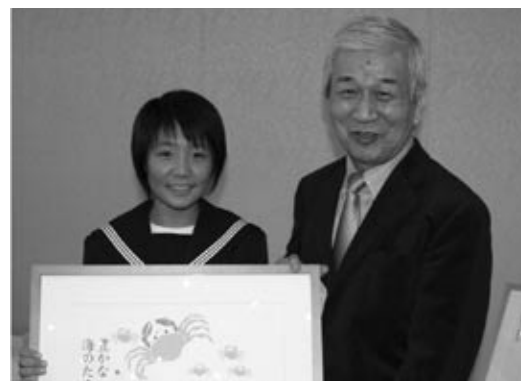
ざぶん賞は、2002年に「海の祭典」が石川県で開催されることになり、その協賛事業として第1回目を実施しました。当時、当会がNPO法人としてスタートすることに際し、新たな公益事業として、体験航海とともに行ったものです。

第1回目は馳 浩氏が会長に就任いただき、2回目から筑紫氏が会長となり、発展を続けてきました。

現在では北海道、栃木、福井、山梨、千葉、福岡、宮崎でも地区表彰式を開催。福島、新潟、横浜、名古屋では、海上保安部から「うみまる賞」を交付いただくなど、全国にその輪が広がっています。

当会はまさにその活動の基盤として、事務局を受け、また石川県内のPRなどに役員の皆様がご尽力いただいています。

次年度以降、新たな実行委員会会長のもと、さらなる発展継続を目指しております。



## 夏のイベントを開催。

### わくわくドキドキ体験クルージング金沢

7月19日 金沢港

金沢港では港フェスタとの共催で、体験航海を2年ぶりに開催、多くのご家族や子供たちがボートを体験しました。

今回もウオウオクラブ、ボートフィッシングクラブ、マリンフィッシングクラブ、金石磯船会、さざなみマリンクラブ、清水マリンクラブらの皆様がボートを提供。400名以上の市民を乗せて金沢港沖を走りました。

今年は海上保安部巡視船『えちご』も寄港し、体験航海を同時に開催され、参加艇が並走する観閲パレードも行われました。



### マリンスポーツチャレンジデー、ボート天国NANAO

7月21日 七尾港

七尾港で恒例のボート天国を開催。晴天に恵まれ今回も約360人の一般市民が参加しました。震災の復旧も成された海洋センター前の施設にて行われました。能登支部所属の七尾マリン協会、雌島クラブ、七尾市セーリング協会の皆さん約50名が協力、20隻のボートを提供し、体験航海など開催しました。



### 親子ふれあいボートフィッシング大会

7月24日 小松安宅、白山美川

今年も小松、美川で、親子を対象としたボートフィッシング大会が開催されました。

両会場合計で約200名の親子が、早朝の加賀の海に向けて出発。きず釣りなど体験しました。

## トライアスロン大会、セーリング大会に今年も協力

8月23～31日 羽咋滝港、24日 珠洲鉢ヶ崎

トライアスロン珠洲大会に、今年も長浜マリン協会の皆様が、スイムの海上安全において協力いたしました。メンバー15人(隻)がボートを提供し、各配置にて監視しました。

また、羽咋の滝港では、近畿北陸学生セーリング選手権大会の運営に7名が協力しました。

## 海難訓練を各地で実施。心肺蘇生や緊急搬送についての講習会も。

6月1日 加南支部 小松・美川合同訓練

小松安宅港にて心肺蘇生法についての講習会を開催、加南支部の皆様、68名が受講しました。

特にAEDの使用方法について、熱心に実施指導を受けました。講師からは、AEDの設置場所を知り、その場所を確認しておくことの大切さを教えられました。



6月14日 羽咋支部 訓練

羽咋支部では、今年も水難救済会との合同訓練を開催しました。会員30名が参加しました。

8月5日～ 能登支部 訓練

(8月5日輪島、9月20日珠洲、21日七尾、27日穴水)

能登支部では、6月に水難救済会との合同訓練を各地にて実施しました。各地の救難所に所属する会員や、自治体消防署などが参加し、開催されました。輪島：38名、珠洲：20名、七尾：80名、穴水：51名の会員がそれぞれの地区で参加しました。同時に講習会も実施しました。

11月22日 金沢支部 救命救急講習会

昨年に続き、今年も金石消防署にて救急救命講習会を開催、12名の会員が参加しました。

金沢支部の合同訓練は荒天のため中止となりました。

## 安全パトロール、指導員養成講座や講習会など開催

### 6月15日 金沢で安全パトロール

金沢支部では34名が参加し、金沢港周辺でレジャー中の皆様に安全パトロールを実施し、ジャケット着用など啓発を行いました。



### 6月29日 能登支部 講習会

### 9月12日 金沢支部 養成講座

安全事業の一環として、安全指導員の皆様を対象とした講習会などが開催されました。

## 安全指導員に新たに6名の皆さんが任命されました。

### 3月28日、11月13日 指定式

安全指導員として、下記の皆さんが新たに指定されました。

山辺 功 氏	(羽咋支部)
宇野 秀幸 氏	(金沢支部)
本村 外茂由 氏	(金沢支部)
水本 正幸 氏	(金沢支部)
森 久雄 氏	(金沢支部)
藤元 浩司 氏	(金沢支部)



## 安全情報

### ライフジャケット着用を徹底しよう!

協会では会員の命を守るべく、ライフジャケットの100パーセント着用を目指しています。

今回はジャケット着用時の海中転落時について、その行動のポイントを再確認します。

#### 低体温症が死亡の原因に

水の中では、たとえウェットスーツなどを着用していても著しい速さで身体の熱が奪われますが、奪われる熱の量が、身体から産出する熱の量を上回り、体温が低下する症状を『低体温症』と言います。

体温が36～34℃まで低下すると、手足が震え始め心拍数が上がりますが、これはまだ警告段階です。体温が34～32℃まで低下すると、体全体が震え始め、体の自由が利かなくなり、放置するとやがて死亡します。

船舶事故などで溺死として処理されているケースの多くは、実際には低体温症によるものともされています。

#### 海中に転落した場合

1. 大きく深呼吸をします。人はこのような場合、パニックに陥っています。自分を冷静に見直すことが一番重要です。大きな深呼吸をすることで、落ち着き冷静になれます。
2. 付近に船舶を発見することができなくても、必ず助かるとの信念を持って救助を待ちます。焦れば焦るほど体力を消耗するのでゆっくりと構えましょう。
3. 水中で運動すればするほど体熱が奪われエネルギーのロスになります。可能な限りじっとして保温に努めましょう。HELP (Heat Escape Lessening Posture) (熱放出低減姿勢)をとりましょう。
4. 付近に岩場等がある場合、波が穏やかであればそのまま、岩場に上陸して下さい。しかし、磯波等があり危険な場合は逆に沖に向かって移動しましょう。

普段より救命要具はすぐに使える状態にしておくとともに、もしも事故が発生したらどのように行動したらよいのかを確認しておきましょう。

## 当会のNPO活動を率先し、また金沢の海洋文化の発展に貢献されました。

前副会長・金沢支部長 矢尾隆雄さまを偲んで

前副会長・金沢支部長の矢尾様は、長年その指導力にて金沢支部を統率されました。当会のNPO法人化当時より、企画実行力を発揮され、金沢港での体験航海の実現や、係留問題への取り組みを具体化させることにご尽力されました。

体験航海では、金沢港内の埠頭を、海の日にて使用することの許可を関係者と粘り強く交渉し実現。「わくわくドキドキ体験クルージング金沢」と命名し、多くの市民に親しんでいただく機会を実現しました。

係留施設の整備については、利用者の考え方、投資意識の違い、地域住民の反対などで、挫折して当然の局面が何度もありましたが、これを乗り越え、今年オープンに至るまで、関係者を導かれました。

理論だけでなく、会員であるユーザーの皆様の気持ちを大切に、そして事業に参加する皆様の方向が一致してこそ何事も実現できるということを、体をもって示され、常日頃から教えていただきました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

## お知らせ

### 2008、2009年度の役員改選

新任	理事	石井 泰博 (金沢支部)
		今井 重松 (金沢支部)
	監事	畑 孝到 (金沢支部)
退任	理事	矢尾 隆雄 (金沢支部)
		比良 博 (金沢支部)

### 2008年度の会員の功労表彰受賞

安全指導に関わる活動の功績を称え、本年度も海上保安部長表彰が、当会安全指導員に授与されました。表彰式や伝達式は、海の日に各所で行われました。

永年にわたる指導、安全パトロール活動の実績や、講習会や訓練などへの関わりにより、会員に広く安全運航や海難防止思想の普及・高揚に尽力したことの功績が評価されています。

#### ●金沢海上保安部長表彰

馬場栄一郎 (ウオウオクラブ)

#### ●七尾海上保安部長表彰

梶 雅彦 (長浜マリンクラブ)



### 2008年度会員状況

#### ●正会員

21団体、個人2名

(前年度と変わりありませんので、会員名は省略)

#### ●賛助会員

自治体

石川県、珠洲市、輪島市、七尾市、羽咋市、金沢市、白山市、

小松市、加賀市、穴水町、内灘町

企業、団体

石川県漁船保険組合、石川県セーリング連盟、石川船用品、エイトノット、大積海産物、木下造船所、さざなみマリン、清水マリンサービス、城北建設、全国企業振興センター、損保ジャパン、太陽プロパン商会、TAKANO、つり具センターあさの、東洋建設、戸田建設、ドラッグヨシダ、中尾食品、中越自動車商会、中野朝日自動車工業、永井海事事務所、日成ビルド工業、日本海建設、ナナオ、西田鉄工、日装設営センター、橋本商店、フィッシングふたくち、フルノ関西販売、マリンパーク内灘、みちがみ釣具店、みやげ釣具店、ヤマハ発動機、ヤンマー船用システム (50音順)



# スナップ

## 五八開業記

ウォーターフロントパーク金沢竣工式



夏のイベント  
(七尾、小松・美川)



## ざぶん賞2008

海難訓練、講習会  
(各地)



### 編集後記

想定外、予想外という言葉が近頃よく耳にします。海に関しても、記憶に新しい護衛艦の漁船衝突や、造船中の船へのタラップの落下などは、全く予想外の重大事故。元来事故は予測不能であるがゆえ起こるものですが、どうしてこんな初歩的なミスか？ということが増えているようです。また、現在の著しい経済情勢の悪化についても、1年前に予測した経済学者や評論家はほとんどいなかったそうです。自然災害は科学の発達で予想できることが幾分多くなりましたが、一方結果をある程度予想できたはずの人間の活動は、反対に予想しにくい事態が多くなりました。こんな時代、ますます家にこもって暮らすのか、それとも自然と接する時間を大切にすべきなのか、難しい選択が求められそうです。